



放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和8年4月1日

事業所名 みずいるほうす

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を挙げた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		
	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%		
業務改善	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に研修	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者からの要望を反映	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して実施している	100%	0%	長期休みの外出行事など	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	支援の進捗具合を記録	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	少なくとも半年単位で行っている	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	100%	0%		

20	障害相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	基本的に自発管が出席	
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	86%	14%	送迎時や子供からの情報も責任者へ報告	
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20%	80%		
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	71%	29%		
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	86%	14%		
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	連絡会を通じて参加	
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時やHUG連絡ノート	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	面談時など	
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	面談時や電話	
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		ご要望がない、不要の意見が多い
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		できる限りその日のうちか翌日には対応
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		インスタグラムやブログ
35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	100%	0%		

関係機関や保護者との連携

保護者への説明責任等

非常時等の対応					
38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	定期的に研修	
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	定期的に研修	
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	定期的に研修	
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	100%	0%		
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	定期的にミーティング	

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 8年4月1日

事業所名 みずいろはうす

保護者等数(児童数) 4 回収数 4 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	80%	0%	0%	20%	その日の人数がわからないので、スペースが確認されていないかわからない。	定員に対して十分なスペースを確保しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	80%	0%	0%	20%	その日の人数がわからないので、スペースが確認されていないかわからない。	定員10人に対し、最低でもスタッフ5人配置するようにしています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	0%	0%		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	80%	0%	0%	20%		
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	100%	0%	0%	0%		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	80%	0%	0%	20%		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	0%	0%		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	80%	0%	0%	20%		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	0%	0%		
	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	100%	0%	0%	0%		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	80%	0%	0%	20%		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	80%	0%	0%	20%		
適切な支援の提供	13 日頃から子どもたちの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態、課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	0%		
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	80%	0%	0%	20%		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	80%	0%	0%	20%		
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	80%	0%	0%	20%		

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	60%	0%	0%	40%		
18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	100%	0%	0%	0%		
19	個人情報情報の取扱いに十分注意されている	100%	0%	0%	0%		
20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	60%	0%	20%	20%		
21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	80%	0%	0%	20%		
22	子どもは通所を楽しみにしている	100%	0%	0%	0%	とても楽しみにしている	ありがとうございます。
23	事業所の支援に満足している	100%	0%	0%	0%		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年 4月 1日

事業所名 みずいろはうす

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	86%	0%		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	86%	0%		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	各種研修を定期的に開催	
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	半年に一度のアセスメントしている。面談をしている	
	11 子どもへの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	アイデアを聞き取り	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	アイデアを聞き取り	
	16 子どもへの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	100%	0%	個人の遊び集団の遊びを行事に入れている	

適切な支援の提供

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎朝の朝礼	
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有している	100%	0%	更新ごとに連絡	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	毎日支援の進捗状況を記録	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
21	障害児相談支援事業所のサービスマン担当者会議にその子どもたちの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	自発管もしくは常勤社員	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	57%	43%		
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	100%		
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもたちの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	100%		
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	送迎時などに情報共有	
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	送迎時などに情報共有	
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	必要時応じて積極的に報告などしている	
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%		
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%		
30	日頃から子どもたちの状況を保護者と伝え合い、子どもたちの発達状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時やHUG	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		

関係機関や保護者との連携  
関係機関や保護者との連携

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	100%	0%		
	35	100%	0%		
	36	100%	0%		
	37	100%	0%		
	38	100%	0%		
	39	100%	0%		
	40	100%	0%		
	41	100%	0%	定期的に研修	
	42	100%	0%	定期的に研修	
	43	100%	0%	契約時に確認	
	44	100%	0%		
	45	100%	0%		
	46	100%	0%	定期的に研修	
47	100%	0%	研修で周知		
非常時等の対応					

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。